

生成 AI 時代の教育意識：計算と外国語、どちらが大事？ —英語圏と非英語圏で異なる学習観を示唆— スプリックス教育財団 国際基礎学力調査より

スプリックス教育財団 基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査 2025

公益財団法人 スプリックス教育財団（本部：東京都渋谷区／代表理事：常石 博之）は、基礎学力に対する意識の現状を把握することを目的に、「基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査 2025」を実施しました。今回の第 2 回報告では、特に「外国語を学ぶ意欲」に焦点を当てます。調査結果のポイントは以下のとおりです。

調査結果のポイント

① 計算力に加えて、外国語も過半数が「必要」

小学 4 年生では、日本・フランスを除く 5 か国で「基本的な計算力が必要」が 8 割以上でした。一方、「外国語を話す能力」が 8 割以上だったのは中国・ネパール・南アフリカの 3 か国にとどまりました。もっとも、その他の国でも過半数が「必要」と回答しており、すべての国で『生成 AI があっても外国語学習は必要だ』と考える子どもが多数派でした。

② 英語の位置づけが優先度に影響？

英語圏※（米・英）では、子ども・保護者ともに「計算力」の必要性は「外国語を話す能力」よりも約 10 ポイント高い傾向が見られました。一方、日本やフランスの子どもでは両者が同程度、あるいは僅差で「外国語を話す能力」をやや高く評価していました。これらの傾向は、英語が主要言語かどうか、優先度を左右している可能性を示唆します。ただし、教育制度や学習機会など他の要因の影響も考えられます。

※ アメリカは長らく連邦レベルで法的な公用語を定めていませんでしたが、2025 年 3 月 1 日付の大統領令で英語を公用語とする方針が示されました。本稿では区分上の便宜から「英語圏」と表記します。また、南アフリカは英語を含む多言語国家であるため、本稿では英語圏に含めていません。

調査の背景

ChatGPT に代表される生成 AI の登場により、複雑な計算や翻訳が容易に行えるようになりました。その結果、「人が学ぶことの意味」そのものが再定義されつつあり、従来は当然のように身につけるべきとされてきた**基礎学力**の価値も、改めて見直される局面が増えています。

こうした状況を踏まえ、公益財団法人スプリックス教育財団（本部：東京都渋谷区／代表理事：常石 博之）は、「現代の子どもや保護者は基礎学力をどのように捉えているのか」「その認識は実際の基礎学力とどう結びついているのか」を明らかにするため、**国際調査『基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査 2025』**を実施しました。

今回の第 2 回報告では、特に「**外国語を学ぶ意欲**」に焦点を当てます。生成 AI の普及により、誰もが自然な英語や多言語翻訳を手軽に利用できる一方で、「**学ぶ意欲そのものが薄れているのではないか**」という懸念があります。そこで本報告では、

① 「外国の言語を話す能力（以下、外国語を話す能力）」と、前回取り上げた「基本的な計算ができる能力（以下、基本的な計算力）」との必要性の認識の違い

② 保護者と子どもにおける「外国語を話す能力」の必要性の認識の差異

について、国ごとに比較し、その国の文化が子どもや保護者の意識にどう表れているのかを探りました。

調査方法

- 【調査時期】 2025 年 4 月～7 月
 【調査対象】 世界 8 か国の小学 4 年生および中学 2 年生相当の子どもと、その保護者（対応関係あり）※各学年で 7 か国。下の表を参照ください。
 【調査方法】 (1) インターネットパネル調査 (2) 調査参加校の教室での実施
 【回収サンプル数】

国	調査方法	小 4 子ども・保護者	中 2 子ども・保護者
米・英・仏・南ア・中・	パネル	150 組	150 組
インドネシア	教室・自宅		46 組 (1 校)
ネパール	教室・自宅	67 組 (3 校)	
日本	教室・自宅	235 組 (6 校)	48 組 (1 校)

- ※ 2025 年 8 月 8 日時点での回収状況を示しております。
 ※ 学校の教室・自宅での調査（インドネシア、ネパール、日本）では、回答者はランダムに抽出されたものではありません。そのため、便宜上「国名」として記載していますが、**特定の地域や学校の結果であることにご留意ください。**
 ※ 以下、子どもは「小学 4 年生」を指します。説明の簡潔さを優先し、本文では小学 4 年生の結果を中心に紹介しています。中学 2 年生の結果は、本報告書の「付録」をご参照ください。
 ※ 有効回答数が 30 組以上のグループのみ分析対象としました。
 ※ 本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「スプリックス教育財団調べ」と明記してください。

調査結果

① 『生成 AI があっても外国語学習は必要だ』と考える子どもが多数派

「基本的な計算力」や「外国語を話す能力」が子ども達自身にとって必要かどうかを、世界 7 か国の小学 4 年生の子どもに尋ねました。生成 AI の影響を把握するため、設問の冒頭で「生成 AI を使えば、いろいろな問題を解決することができます。また、生成 AI は海外の言語で書かれた文章を訳してくれます。」と前置きしたうえで、必要性を尋ねました。

図 1(a)は、各国における子どもたちの回答結果を示しています。2 つの能力について連続して尋ねているため、「基本的な計算力」と「外国語を話す能力」の重要度を比較することが可能です。

まず、「基本的な計算力」（緑の棒グラフ）については日本とフランスを除いた 5 か国で、8 割以上の子どもが必要だと回答しました。一方、「外国語を話す能力」は、中国、ネパール、南アフリカの 3 か国で、肯定の回答が 8 割を超えました。このことから、**世界的には、「外国語を話す能力」よりも「計算力」の重要性が高いと認識されている傾向がみられました。**

質問：生成 AI があっても、あなた自身が「基本的な計算ができる能力」「外国の言語を話せる能力」は必要だと思いますか？ [回答者：小学 4 年生]

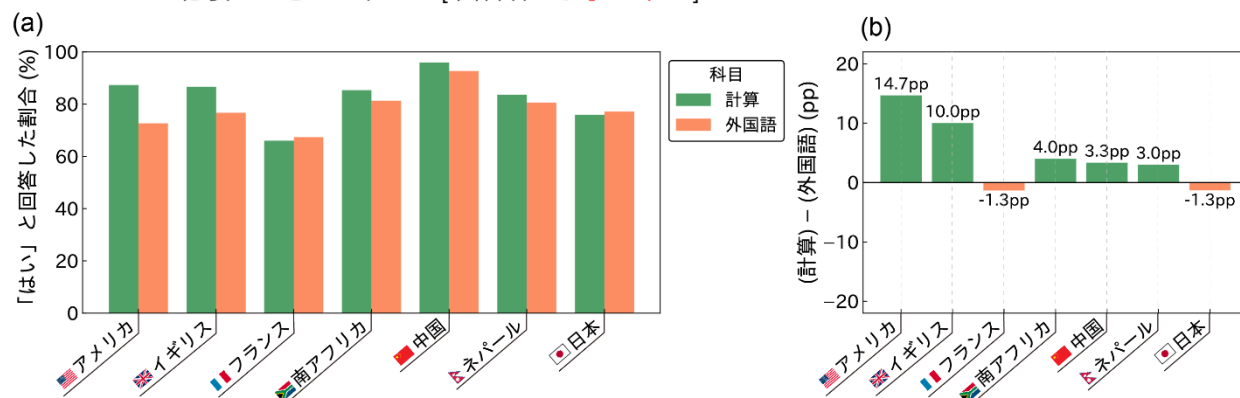


図 1. 「生成 AI があっても、あなた自身が、“基本的な計算ができる能力”/“外国の言語を話せる能力”は必要だと思いますか」に対する、国別の子ども（小 4）の回答比較 (a) 国ごとの「はい」と回答した割合（基本的な計算力 vs 外国語を話す能力）
 (b) 「基本的な計算力」と「外国語を話す能力」の必要性認識の差

す。もっとも『外国語を話す能力』についてもすべての国で「不要だ」とする回答は少数派にとどまっており、**すべての国で『生成 AI があっても外国語学習は必要だ』と考える子どもが多数派**でした。

次に各国別に、「基本的な計算力」と「外国語を話す能力」について、「はい」と回答した割合の差を調べた結果を図 1(b)に示します。アメリカやイギリスといった**英語圏の 2 つの国では、「基本的な計算力」の重要性の認識が「外国語を話す能力」よりも 10 ポイント程度上回り**ました。一方、それ以外の国々では両者の差は 5 ポイント以下にとどまり、特に**日本やフランスではむしろ「外国語を話す能力」のほうがやや高く評価**されました（ただし、統計的に有意な差ではありません）。この結果は、**英語がその国で主要言語か否かが、学力観に対する価値づけに影響を与えている可能性**を示唆します。

② 保護者世代は「外国語を話す能力」より「基本的な計算力」を重視

同様の質問を、**子どもの保護者**にも行いました。その結果を図 2(a)に示します。「基本的な計算力」はフランスとネパールを除く 5 か国で 8 割以上の保護者が必要と回答し、「外国語を話す能力」はアメリカとネパールを除く 5 か国で 8 割以上が必要と回答しました。

また、「基本的な計算力」と「外国語を話す能力」の必要性の認識の差を評価したのが図 2(b)です。フランスを除くすべての国で「基本的な計算力」がより重視されることが分かりました。また、子どもの回答同様、アメリカやイギリスでは、「基本的な計算力」の重要性の認識が「外国語を話す能力」よりも 10 ポイント以上上回り、他国と比べて大きな差が見られました。

日本では、「基本的な計算力」のほうが「外国語を話す能力」より必要であるという認識の差が 5.7 ポイントとなりました。一方、図 1(b)で見たように、子どもでは、-1.3 ポイントと「外国語を話す能力」のほうがやや高く評価されており、子どもと保護者の間には対照的な傾向が見られます。つまり、**保護者のほうが計算力を重視**しているといえます。これは**保護者世代が子どもの将来に必要な学力として「基本的な計算力」を「外国語を話す能力」より強く位置付けている**ことを示唆します。

③ 子どもは基礎学力の重要性を、保護者と比べて十分に認識していない可能性

最後に、**保護者と子どもの回答の違い**を、「外国語を話す能力」に関してのみ比較しました[図 3(a)]。データ自体は図 1・2 と同じですが、見やすさのために同じ図に並べました。ネパールを除いた 6 か国で、保護者のほうが子どもよりも

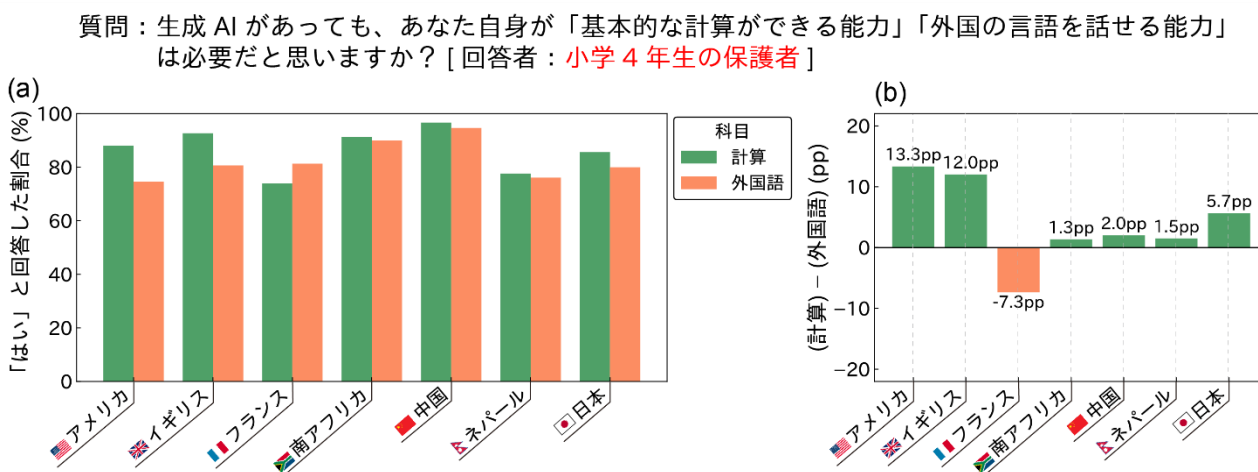


図 2. 「生成 AI があっても、あなたの子どもが、“基本的な計算ができる能力”/“外国の言語を話せる能力”は必要だと思いますか」に対する、国別の小 4 の保護者の回答比較 (a) 国ごとの「はい」と回答した割合（計算力 vs 外国語を話せる能力）(b) 計算力と外国語を話せる能力の必要性認識の差

質問：生成 AI があっても、外国の言語を話せる能力は必要だと思いますか
 [保護者：お子様について / 子ども（小4）：自分について]

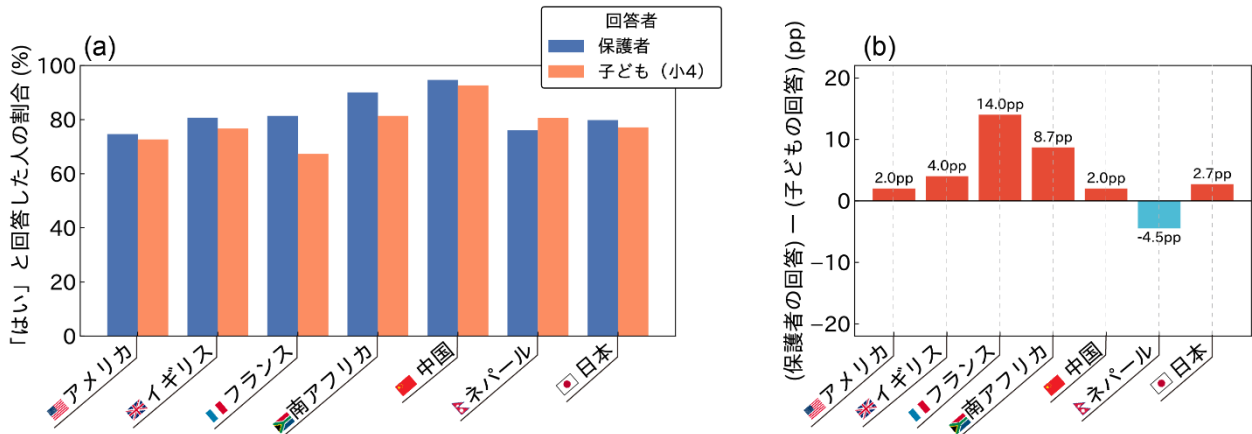


図 3. 「生成 AI があっても、(保護者) お子様が / (小 4) あなた自身が、外国の言語を話せる能力は必要だと思いますか」という設問に対する、国別・保護者/子ども別の回答比較 (a) 国ごとの「はい」と回答した割合 (保護者 vs 子ども) (b) 保護者と子ども間の意識の差 (保護者の割合 - 子どもの割合)

「外国語を話す能力」が「必要」と回答しました。前回のニュースリリースでは「基本的な計算力」について、ほとんどの国の保護者の認識が子どもより高いことを示しましたが、今回「外国語を話す能力」でも同様の傾向が確認されました。

この結果から考えると、二つの能力に限った比較ではありますが、**保護者のほうが勉強することや基礎学力の重要性を強く理解している一方で、子どもはその重要性を保護者と比べて十分に認識していない可能性**があります。

議論

今回の調査によって、英語圏では「外国語を話す能力」が相対的に重視されにくい傾向が示唆されました。*Guardian* や *Financial Times* の報道によれば、イギリスでは高校卒業レベルに相当する A-level における外国語科目の履修者数が大幅に減少しました（添付報告書の関連調査一覧を参照）。その大きな要因として、2004 年に外国語学習の義務付けが廃止されたことが指摘されています。これにより、外国語を学ぶ「機会」が縮小し、その結果として生徒の外国語への「関心や意欲」自体も徐々に失われていった可能性があります。

一方で、日本の小学 4 年生では、僅差ではありますが「外国語を話す能力」が「基本的な計算力」より「必要」と回答する割合が高い結果となりました。令和 5 年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」によると、日本の中学 2 年生に対する調査において、「〇〇の勉強は大切」「〇〇の勉強は役に立つ」という設問の選択率では、英語が数学を上回ることが示されています。これは本調査の傾向と矛盾せず、日本の子どもによる英語の相対的な重視が一定程度再現されました。

まとめ

今回は、「外国語を話す能力」の必要性について子どもと保護者に尋ね、「基本的な計算力」の必要性和比較しました。その結果、世界全体としては、子ども・保護者ともに、「外国語を話す能力」より「基本的な計算力」を重視する傾向がみられました。ただし、「外国語を話す能力」についても各国で過半数が「必要」と回答しており、「生成 AI があるから外国語学習は不要だ」という見方は少数派にとどまりました。

国別にみると、アメリカやイギリスなど英語を主要言語とする国では「基本的な計算力」の重視がより明確でした。一方、フランスと日本では、子どもが「外国語を話す能力」を「基本的な計算力」と同程度、あるいはやや高く評価する傾向がみられました。

これらの結果は、今後、生成 AI のさらなる普及に伴い変化する可能性があります。また、「基本的な計算力」の概念は国によってイメージが異なる可能性があるため、今後の調査では、①その捉え方の国際差と、②生成 AI の普及に伴う意識の変化の双方を検証していきます。なお、**付録に中学生を対象とした結果も掲載**していますので、併せてご確認ください。

ニュースリリースに関するお問い合わせ先

公益財団法人スプリックス教育財団 担当 : 調査窓口 秦・三村

所在地 : 〒150-6222 東京都渋谷区桜丘町 1-1 渋谷サクラステージ SHIBUYA タワー22F

URL: <https://sprix-foundation.org/> E-mail: survey@sprix-foundation.org

付録

調査方法の詳細

- (1) 調査会社（株式会社クロス・マーケティング）が実施したインターネットパネル調査。WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により意識調査（保護者と子ども対象）に回答。
- (2) 株式会社スプリックスが実施した学校調査。児童・生徒は学校の教室にて、保護者は自宅等で、WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により回答。

調査項目（保護者対象） ※今回報告した項目のみ記載

質問：生成 AI を使えば、いろいろな問題を解決することができます。また、生成 AI は海外の言語で書かれた文章を訳してくれます。生成 AI があっても、以下があなたのお子様には必要だと思いますか。

「お子様自身が基本的な計算ができる能力」

「お子様自身が外国の言語を話せる能力」

選択肢：はい/いいえ

調査項目（子ども対象） ※今回報告した項目のみ記載

質問 1：生成 AI を使えば、いろいろな問題を解決することができます。また、生成 AI は海外の言語で書かれた文章を訳してくれます。あなたは、生成 AI があっても、以下が必要だと思いますか。

「あなた自身が基本的な計算ができる能力」

「あなた自身が外国の言語を話せる能力」

選択肢：はい/いいえ

関連調査一覧

論文

- Fatih Karataş et al., *"Incorporating AI in foreign language education: An investigation into ChatGPT's effect on foreign language learners"* Education and Information Technology **29**, 19343 (2024).

記事

- FINANCIAL TIMES *"Students in England shun foreign languages at A-level, report finds"* (2025).
<https://www.ft.com/content/b138178c-e741-45fe-b053-05420713c04f>(参照 2025/09/16)
- Guardian *"Fewer pupils in less affluent English schools taking languages, survey finds"* (2025)
<https://www.theguardian.com/education/2025/jul/01/fewer-pupils-less-affluent-english-schools-foreign-languages> (参照 2025/09/16)

国際調査

- European School Education Platform *"Survey on language learning – Results"* (2023).
<https://school-education.ec.europa.eu/en/discover/surveys/survey-language-learning-results> (参照 2025/09/16)
- Eurobarometer survey *"Europeans and their languages"* (2024)
<https://europa.eu/eurobarometer/surveys/detail/2979> (参照 2025/09/16)
- Pew Research Center *"Most European students are learning a foreign language in school while Americans lag"* (2019)
<https://www.pewresearch.org/short-reads/2018/08/06/most-european-students-are-learning-a-foreign-language-in-school-while-americans-lag/> (参照 2025/09/16)

国内調査

- ベネッセ教育総合研究所『小学校英語に関する調査 ― 小学校学習指導要領全面実施前後での 児童の英語力及び意識の変容』
- 斉田智里・鈴木雅之・高本真寛・大場貴志・西村秀之・登藤直弥 (2024)『令和 5 年度 全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析 (最終報告)』文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20240517-mxt_chousa02-000036016_06.pdf (参照 2025/09/16)

補足データ

本リリースでは小学 4 年生の結果を中心に取り上げましたが、参考として、中学 2 年生相当の子どもに対する調査結果も簡潔に紹介します。調査対象国およびサンプル数の詳細については、本文の「調査方法」をご参照ください。

図 A1～A3 は、本文の図 1～3 に対応するもので、中学 2 年生およびその保護者の回答を分析しています。日本に着目し（※調査対象校は 1 校のみである点に留意）、本文の図 1(a)[小 4]と図 A1(a)[中 2]に示す「外国語を話す能力」の回答割合を比較すると、小 4 では 77%であったのに対し、中 2 では 68%に低下しました。さらに「基本的な計算力」と「外国語を話す能力」の差に注目すると、小 4 では+5.7 ポイント、中 2 では+10.6 ポイントとなり、開きが拡大しています。これは、学年が上がるにつれて外国語を学ぶ意識が相対的に弱まる傾向を示唆します。

なお、本調査は同一の子どもを追跡したものではなく、学年段階ごとの横断的比較に基づくものです。今後は、同一集団を継続的に調査することで、学年の進行に伴う経年変化をより明確に捉えていくことが重要だと考えています。

質問：生成 AI があっても、あなた自身が「基本的な計算ができる能力」「外国の言語を話せる能力」は必要だと思いますか？ [回答者： **中学 2 年生**]

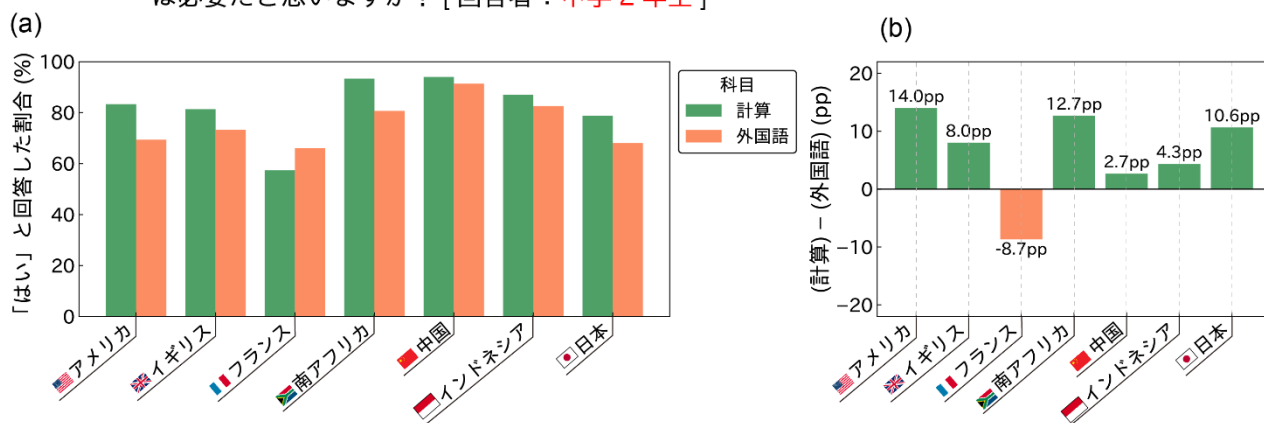


図 A1. 「生成 AI があっても、あなた自身が、“基本的な計算ができる能力”/“外国の言語を話せる能力”は必要だと思いますか」に対する、国別の子ども(中 2)の回答比較 (a)国ごとの「はい」と回答した割合（計算力 vs 外国語を話せる能力）(b) 計算力と外国語を話せる能力の必要性認識の差

質問：生成 AI があっても、あなた自身が「基本的な計算ができる能力」「外国の言語を話せる能力」は必要だと思いますか？ [回答者： **中学 2 年生の保護者**]

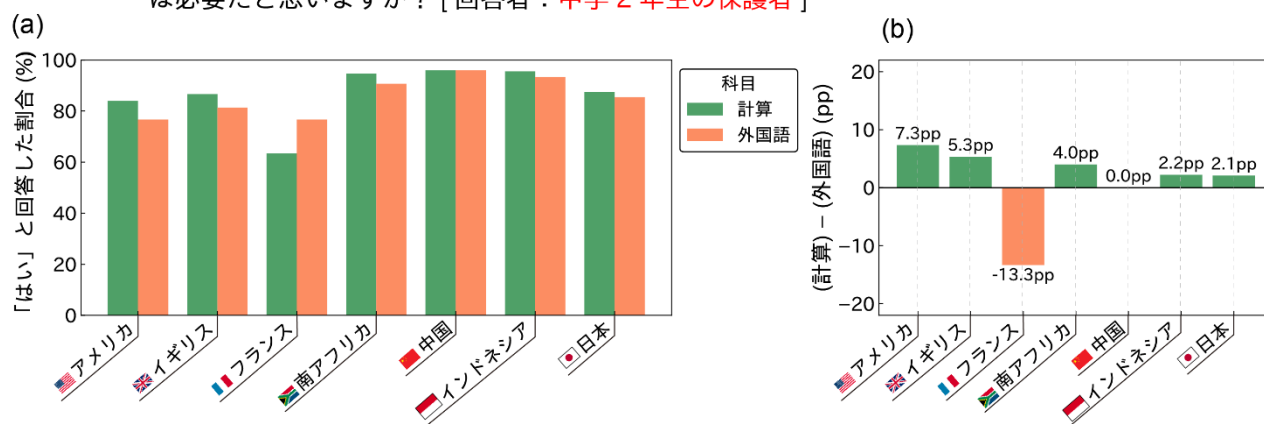


図 A2. 「生成 AI があっても、あなたの子どもが、“基本的な計算ができる能力”/“外国の言語を話せる能力”は必要だと思いますか」に対する、国別の中 2 の保護者の回答比較 (a)国ごとの「はい」と回答した割合（計算力 vs 外国語を話せる能力）(b) 計算力と外国語を話せる能力の必要性認識の差

質問：生成 AI があっても、外国の言語を話せる能力は必要だと思いますか
 [保護者：お子様について / 子ども（中2）：自分について]

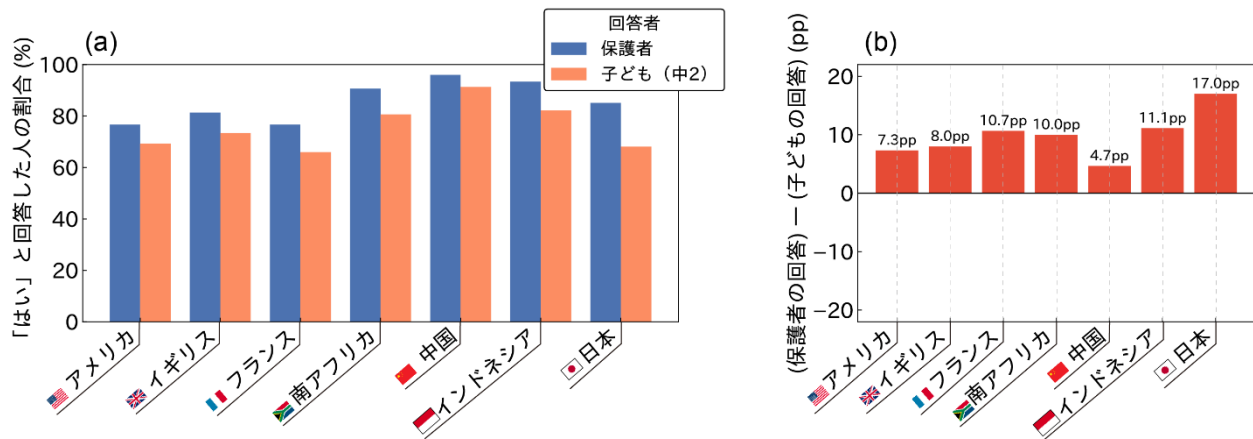


図 A3.「生成 AI があっても、（保護者）お子様が／（中2）あなた自身が、外国の言語を話せる能力は必要だと思いますか」という設問に対する、国別・保護者/子ども別の回答比較 (a)国ごとの「はい」と回答した割合（保護者 vs 子ども）(b) 保護者と子ども間の意識の差（保護者の割合 - 子どもの割合）

スプリックス教育財団および調査会社の説明

公益財団法人スプリックス教育財団 (<https://sprix-foundation.org/>)

公益財団法人スプリックス教育財団では、金銭的な理由による学習機会の喪失を防ぐため、支援を必要とする若い世代への奨学金の支給を行います。また調査研究事業として、教育の側面から諸問題に対する調査・研究を行い、これらの問題を社会で考える足掛かりを提供したいと考えています。

東京本部：東京都渋谷区桜丘町 1-1 渋谷サクラステージ SHIBUYA タワー22F

株式会社スプリックス (<https://sprix.inc/>)

株式会社スプリックスは、生徒に自信を与え、学習能力を高めることで将来の見通しを向上させることを使命として、1997 年に日本で設立されました。当社は、業界をリードする個別指導塾、教科書と教材、スキルのテスト、オンライン教育プラットフォーム、そして学術研究を含む幅広い教育サービスを提供しています。

株式会社クロス・マーケティング (<https://www.cross-m.co.jp/>)

株式会社クロス・マーケティングは東証プライム上場企業「クロス・マーケティンググループ」のグループ企業です。

クロス・マーケティンググループが保有するリサーチ機能の根幹に位置し、データマーケティング&インサイト領域において生活者理解のためのマーケティングリサーチ事業、生活者データの効率的な収集・活用を推進するデータマーケティング事業を幅広く展開しています。